

人材育成部会報告

R5年度実績・R6年度計画概要

Next次世代教育・IoP塾チーム R5年度実績・R6年度計画

学士課程 IoP実施3大学による「IoP教育プログラム」

■改組した高知大学農林海洋科学部の「次世代農業教育プログラム」に組入

実績・成果【R5】

R5 「高知の最先端農業IoP入門セミナー」(4~7月)【全15講座】

受講者：**331名**(高知大184名、工科大147名)

- ・高知大学の受講者数は、次世代農業教育プログラムの宣伝効果もあり**過去最高を記録**
- ・研究者、高知県、公設研究員、企業、農家らプロジェクトに関わる専門家による授業
- ・サステイナブル分野の研究者も授業を実施

理解度**97.3%**
満足度**95.5%**



R5 「データ農業をやってみよう！IoPサマースクール」

(9/11~15 高知大で3日、工科大で2日実施)

受講者：**15名**(高知大6名、工科大9名)

理解度**100%**
満足度**100%**

- ・データ農業実現に必要なデータサイエンス、プログラミング・環境計測技術を学ぶ
- ・IoPプロジェクトに参画する研究者らが講義・演習を実施
- ・IoPハウスの見学、ラズベリーパイを用いた実習等もあり



R5 「次世代農業を感じてみよう！IoPスプリングスクール」(2/19~20)

受講生：**16名**(高知大8名、工科大8名)

関心度**100%**
満足度**100%**

- ・最先端施設園芸施設での栽培や、園芸産地における流通について理解を深める。

2/19 (株)サンビレッジ四万十、四万十とまと株式会社
2/20 高知県園芸流通センター、JAグリーンはるの、雨森農園



計画【R6】

■IoP入門セミナー：4~7月開講

履修登録者(高知大**233名**、工科大173名)

■IoPサマースクール：9/9~13開講予定

■IoPスプリングスクール：2月開講予定

修士課程 IoP実施3大学による「大学院特別プログラム」

■IoP連携プログラム 修了要件：IoP特別セミナー、IoP基礎、IoP特別研究、自大学専門科目を修得 (IoP特別インターンシップは修了要件ではない)

実績・成果【R5】

R5年度は修了生**1名**を輩出(工科大)



R5 IoP特別セミナー(4~7月) 受講者：**6名**

(高知大4名、工科大1名、県立大1名)

→受講生6名のうち1名は、IoP共創センターとの共同研究先企業の社員(研修のためR5年度に高知大学農林海洋科学専攻に入学)

R5 IoP特別研究 発表者：**2名**(高知大1名、工科大1名)

参加者：18名(上記以外に学部生5名、教職員11名を加えた数)
3大学の交流を通して、大学間連携・他分野研究の理解を深める。

発表題目・高知県産ししとうの風味及び機能性成分に関する研究
・3次元点群データを用いた果樹の葉数推定



R5 IoP基礎(見学会)/IoP特別インターンシップ

参加者：**3名**(高知大2名、県立大1名)

見学会：10/28 Aitosa(株)、(株)南国スタイル
1/20 高知県農業技術センター
インターン：12/21 高知県農業技術センター



※見学会は学部生と合同開催で、上記以外に15名の学部生が参加

計画【R6】

■IoP連携プログラムの継続実施

- ・IoP特別セミナー 受講者7名(高知大2名、工科大1名、県立大4名)
- ・IoP特別研究
- ・IoP基礎/IoP特別インターンシップ

Next次世代教育・IoP塾チーム R5年度実績・R6年度計画

IoP塾 園芸産業を科学的に捉える力を養成・データ駆動型農業の理解、動画コンテンツ化・活用

実績・成果【R5】

R5 IoP塾Archivesの活用方法

IoP塾Archives (R5年度末時点)

会員登録数：644名 動画コンテンツ：144本 (R5年度16本追加)



①学生等

IoP塾Archivesの活用状況等について、意見交換を実施

1) 農業高校等訪問

高知農業高校、春野高校(6/16)、幡多農業高校(6/23)、嶺北高校、高知工業高校(7/27)

2) 農業大学校訪問 (6/12)

3) 担い手育成センター訪問 (6/23)

■高校等での活用の増加

(単位：人)

授業での活用	実数	延数
高知農業高校	73	153
幡多農業高校	42	76
春野高校	21	21
農業大学校	24	216
担い手育成センター	31	86
合計	191	552

R5 IoP塾出前授業

高知農業、幡多農業にIoP共創センター教員が出張し、IoPやスマート農業に関する授業を実施

■高知農業高校
開催：8/22
参加者：33名



■幡多農業高校
開催：9/19
参加者：24名



※高校生のIoP塾会員がR5だけで40人増 (総数47人)

R5 次世代産業人材育成事業

高知農業と幡多農業の学生 (51名) がIoP共創センターを訪問 (12/25)

内容：実習

ハウス見学

OBOGとの意見交換会



R5 IoP塾デジタル教材活用出前授業

■合同授業 (高知農&幡多農)
開催：10/27 (20名)、2/9 (21名)

■高知農業高校
開催：9/22 (12名)、11/9 (5名)、
11/16 (6名)

高校時代からIoP塾等でIoPに興味を持った学生が高知大学農林海洋科学部に入学 (地域枠で高知農業1名、幡多農業1名、編入学で農業大学校1名)

②農家

人材育成部会の越智委員と打合せ (6/29)

県内農家のIoP塾の視聴が少ないことから、効果的な活用を検討。Archivesの中から農家向けに編集したコンテンツを作成し、生産部会やJA、農業振興センターなどで実施している講習会、研究会等の場で活用。

まずは8月に春野の部会でトライアル実施 (対面)

■春野きゅうり部会 8/25開催

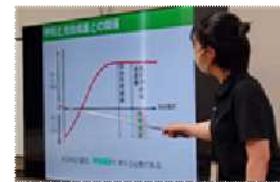
IoP塾Archives動画を活用した植物の生理生態の基礎講座
参加者42名 (農家31名、普及員6名、研究員1名、JA4名)



会場では、高知大学IoP共創センターの野村准教授が質疑応答に対応

■中央西農業振興センター 9/5開催

IoP塾アーカイブス動画を活用した農業基礎講座
参加者12名 (農家7名、普及員5名)



IoP塾Archivesの活用依頼あり

計画【R6】

IoP塾Archivesの活用検討、実施
県内農業高校、農業大学校等の出前授業継続実施

IoP塾Archives (R6.5.23時点)

会員登録数：730名 ※昨年度末から86名増加 (うち高校生が72名)

土佐FBC-学術指導チーム R5年度実績・R6年度計画

土佐FBC-学術指導コース

自立的に研究開発を進め、食品産業を成長に導くことのできる産業人材を育成

実績・成果【R5】



R5 土佐FBCIV
学術指導コースの新規開設



土佐FBCIV 学術指導コース

企業等の事業計画や研究計画に基づき自立的に研究開発を進め、学術指導制度等を活用し、企業の商品開発や生産性向上のための課題対応や、将来、大学との共同研究や大学院進学者の輩出等を目的とした産業人材を育成する。

(本科コース修了生等から随時募集、土佐FBCIVの5年間で**合計 15名**の**人材を輩出し、5～10名の修士課程進学者に繋げることが目標**)

学術指導 4社 7件・学術指導コース生 7名 (延15名)

企業	指導題目	指導期間
A社	商品開発に必要な成分調査や文献調査等	R5.3.1～R5.8.31
A社	豆類の有効成分測定	R5.5.1～R5.10.31
A社	豆類の有効成分測定	R5.11.1～R6.10.31
A社	企業モニターアンケートプロジェクトに関する助言等	R5.11.1～R6.10.31
B社	Sコースで開発した実績の発表と今後の研究計画策定の指導	R5.4.1～R5.12.31
C社	Sコースで開発した実績の発表と今後の研究計画策定の指導	R5.4.4～R6.1.31
D社	果実ピューレの機能性表示食品届け出の検討	R5.7.24～R6.2.29

うち1件については、高知大学との共同研究に発展 (R5.7.10～R6.3.31)

計画【R6】

- ・学術指導コースの継続実施
- ・イノベーション創出基礎コース実施
- ・社会人大学院生リクルート活動

上記表のD社の学術指導について、期間延長して継続中 (R6.9.30まで)
令和6年度に5名の入学が決定
Sコース修了生のうち2名が、高知大学農林海洋科学専攻に入学

R5 Sコース修了生成果発表

6/12-13開催 産学連携学会第21回大会【高知大会】

6/12：土佐FBC教員及びSコース修了生が研究発表 (9名発表)



発表題目
総括「高知大学土佐FBC研究開発人材育成コース (Sコース) 4年間の活動について」
産学連携プログラムを活用した健康茶素材の研究と機能性表示食品の開発
酵素ジュースの研究開発実績及び音楽との相乗効果とその展望
ボタニカルマキノジン構想から製造販売
薬膳シロップの体感評価方法の検討
産学農福連携でSDGsに繋がる6次産業化を実現
こだわりぬいた「焼肉タレ」の商品化と付加価値向上に向けた取組
新たな一次産業創出を通じてストレスによって引き起こされる不調を解決する地域課題 (一) と社会課題 (一) を掛け合わせ価値 (+) にする日本を元気にするソーシャルプロジェクト
ヤギ乳の可能性研究と商品化について
※全ての発表者が、当該成果はIoP事業の助成を受けたものである旨を報告

R5 機能性表示食品の届出完了

Sコース修了生が、機能性表示食品の「とうふ」を商品開発。
日常商品の高付加価値化として画期的な取組



R5 イノベーション創出基礎コースの開設準備完了

高知県の産業にイノベーションを引き起こすことができる基礎能力を有する人材を育成する。(食品関連企業の研究・開発分野の強化)
令和6年度開始：5名/年 毎月1回 (土曜日10:00～16:00) 対面 全5回

人材育成部会関連事項R5度実績・R6年度計画

人材育成部会関連事項 大学改革、機能強化、地域・国際連携関係

R5【大学改革】北海道大学・九州大学と部局間連携協定を締結
 <高知大学>

・IoP研究での連携を契機に、共にSociety5.0における先進的な農業の実現を目指す

プロジェクト開始時からの連携をさらに強化

IoP以外に畜産研究や人材育成でも連携
 →教育組織を含む連携協定

九州大学

【連携先】
 高知大学：IoP共創センター
 九州大学：大学院農学研究院

【期間】
 R6.3.27～R7.3.31

【内容等】
 ・IoP共創センター九州拠点設置
 ・イチゴの生理生態AIエンジン開発
 ・マッチング形式で共同研究を行い、研究力強化、大型競争的資金獲得等を目指す




北海道大学

【連携先】
 高知大学：IoP共創センター、農林海洋科学部・農林海洋科学専攻
 北海道大学：大学院農学研究院・農学院・農学部、大学院国際食資源学院、北方生物圏フィールド科学センター

【期間】
 R6.1.23～R7.3.31

【内容等】
 ・IoP共創センター北海道拠点設置
 ・IoP研究の推進、醸造および畜産等に関する研究強化、人材育成の相互支援

R5【留学生受入】国際シンポジウム等による海外協定校等との連携

・「持続可能な施設園芸に向けたIoPの挑戦」と題した国際シンポジウムを開催（R6.1.28開催）。対面とWebによるハイブリッド方式で166名が参加。IoPプロジェクトにサステイナブル分野のトップ研究者として参画している 関根教授、林教授、高岡教授の特別講演を実施。



人材育成部会KPI

KPI③：専門人材育成プログラム受講生の地元就職・起業数126人（累計）

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	～	2027
当初目標	—	0人	4人	16人	28人	42人	54人	～	126人
実績(累計)	—	0人	5人	20人	30人	40人	56人	～	

KPI⑮：大学院(修士課程)への社会人及び留学生受入人数113名(累計)(高知大学)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	～	2027
当初目標	5人	7人	15人	24人	35人	48人	61人	～	113人
実績(累計)	5人	16人	22人	25人	28人	34人	39人	～	

KPI⑰：農林海洋科学部学生の高知県内就職者数(累計)(高知大学)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	～	2027
当初目標	—	—	—	—	23人	41人	59人	～	173人
実績(累計)	—	—	—	—	23人	44人	65人	～	

R5【大学改革】大学発ベンチャーの設立

<高知大学>
 社名：株式会社高知IoPプラス
 設立：R5.9.1 大学発ベンチャー認定：R6.1.10



IoP共創センター教授 岩尾忠重
 (株高知IoPプラス CTO)

域外展開等に係るAIエンジンの運用・開発委託を担う。また、農産物の物流のDX化事業も実施する。大学はAIエンジン等のロイヤリティを獲得。

計画【R6】

【大学改革】
 <高知大学> 農林海洋科学部定員増申請
 <工科大学> データ&イノベーション学群を新設
 県内各産業分野におけるDXの推進に寄与する人材を育成
農業も実践フィールドの一つに位置付け、DX人材創出に貢献
 (設立：R6.4.1 入学者：62名)



R5【中高生等訴求】IoP広報

<高知大学>
 ・IoPの取組をTV・ラジオCMとして7月（オープンキャンパス申込期間に連動）に放送。

R5物部オープンキャンパス参加者259名（対前年度132人増）

R5【教育委員会関係】農業高校現職教員（研究生）の指導

・高知県教育委員会「内地留学制度」を活用し、現職教員1名をIoP共創センターの研究生として1年間受入。IoPデジタル教材を使用した授業を農業高校で実施。

【中高生等訴求】県教育委員会との連携事業
【国際連携（高知大学）】
 高知大学と日越大学が国際交流協定を締結
 IoP共創センターとWRU、インドハリヤナ州との連携 等

